

聖書使徒の働き 1 : 1 ~ 11

2019/11/24

「父の約束を待ちなさい」

1. はじめに

- ・ルカの福音書の要約が書かれてある。そして神のご計画はどう進むのか。
- * 三福音書は十字架と復活で終わっている。それでイエスの生涯が終わったのではなく、ルカは主イエスの十字架と復活を起点として、次の神の計画を語る。それはイエスの共同体づくりと終わりの日である。
- ・聖霊の働きの展開。教会の特殊性。イエスの来臨。

2. 本文

a. 1 ~ 2 テオフィロ様

- * ルカは福音書に続いて使徒の働きにもテオフィロという人物にこの書物を書き上げたと記している。どんな人物、ルカとの関係は他の情報に委ねますが、ルカはこの二冊をもって私たちに重要な証言を与えています。特に使徒の働きは、これがなければ初代教会の様子は他の手紙でうっすらと分かる程度であった。それは教会についての情報です。教会のなりたちのこと、信仰のこと、いつの時代にも汲み尽くせない宣教とイエスの共同体について、私たちにヒントを与えたいと思います。

b. 3 ~ 5 父の約束を待ちなさい。

3 : よみがえり

4 . エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。

5 : 聖霊のバプテスマを授けられる。

c. 6 ~ 8 (弟子たちはダビデ王国をイメージして) 主よ。イスラエルのために国を再興して下さるのは、この時なのですか。

7 : (神の国は) いつとか、どんな時とかいうことはあなたがたの知るところではありません。それは父がご自分の権威をもって定めておられることです。

8 : しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。

・あなたがたは力を受けます。⇒新しい人間

・その方が来ると、罪について、義について、さばきについて世の誤りを明らかになさいます。罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。義については、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。さばきについては、この世を支配する者がさばかれたからです。 ヨハネ 16 : 8

d. 9 ~ 11

11 : ガリラヤの人たち、どうして天を見上げて立っているのですか。天に上って行くのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになります。

3. まとめ

- ・本文の文脈は。十字架と復活⇒聖霊降臨(宣教と教会づくり)⇒イエスの来臨
- ・わたしの証人となり、わたしはまた来る。(8、11)